

参考資料

ナゴヤ
子どもいきいき 学校づくり計画
(案)

名古屋市教育委員会

目次

I ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画について

1 計画策定の趣旨.....	1
2 目指すべき姿.....	1
3 行動指針.....	1
4 計画期間.....	1
5 実現したい学校ビジョン.....	2

II 現状と課題

1 現状.....	4
2 課題.....	7
3 課題の解決に向けて.....	10

III 今後の小規模校への取り組み

1 取り組みの方向性.....	11
2 取り組みの方法に関する事.....	12
3 取り組みの進め方に関する事.....	14
4 取り組みの推進体制等に関する事.....	18
5 施設整備に関する事.....	18
6 取り組みを進める上での配慮事項.....	19

IV 今後の過大規模校への取り組み

1 取り組みの方法に関する事.....	21
2 取り組みの進め方に関する事.....	23

V 計画の推進に向けて

1 情報の発信.....	24
2 取り組みの検証.....	24

参考資料.....	25
-----------	----

I ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画について

1 計画策定の趣旨

○名古屋市では、少子化に伴い小規模校（11 学級以下の小学校）が増加したため、1998（平成 10）年から学校の統合による課題解消に取り組み始めました。

2010（平成 22）年には「名古屋市立小・中学校における小規模校対策に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）と「小規模校対策に関する実施計画」（以下「実施計画」という。）を策定し、計画的に小規模校対策を進めることにしました。

○「実施計画」に基づき、小学校 44 校を対象に取り組みを進め、統合により 3 校の小規模化を解消しました。しかし、2016（平成 28）年度に計画期間が終了した段階において小規模校は実施計画策定時よりも増加しており、また、過大規模校や学校施設の老朽化等の課題も生じています。

○そこで、教育委員会では、これまでの「基本方針」及び「実施計画」を見直し、学校規模に関する新たな計画として「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」を策定することとしました。今後は本計画に基づき取り組みを進めていきます。

2 目指すべき姿

望ましい学校規模を確保することで、「子どもたちがいきいきと輝く良好な教育環境」を目指します。

3 行動指針

目指すべき姿を実現するにあたっての行動指針を以下の通りとします。

- 1 子どものことを第一に考え、教育委員会が主体的に望ましい学校規模の確保に取り組みます。
- 2 学校ごとの具体的なプランに基づき、目指すべき姿を早期に実現します。
- 3 望ましい学校規模の確保を契機に、教育・学校運営面、施設面それぞれにおいて教育環境の向上を図ります。

4 計画期間

2019（平成 31）年度から 2033 年度までの 15 年間とします。

※本計画に基づく取り組みの状況や人口動向の変化等を踏まえ、計画期間の中間年を目処に、必要に応じて本計画の見直しを行います。

5 実現したい学校ビジョン

本計画に基づく取り組みを進め、望ましい学校規模を確保することにより、子どもたちがいきいきと輝く魅力的な学校ビジョンの実現を目指します。

教育面 子どもたちが多くの人とふれあい育ちます。

- 様々な考え方や価値観に触れ、切磋琢磨することで、社会性やコミュニケーション能力、向上心等を高めることができます。
- クラス替えを契機として意欲を新たにしたり、新しい人間関係を構築する力を身に付けたりすることができます。
- 運動会や文化祭等、学校行事において、種目や演目の選択肢に幅をもたせ、クラス同士が切磋琢磨することで、行事が活性化します。
- 子どもたちが多様な発言をし、対話をする等、活発な授業を展開できます。
- 体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習・グループ学習を、人数の制約なく行うことができます。
- 係活動等の役割をバランスよく分担することで、子どもたち一人ひとりが活躍する場や機会を確保することができます。

学校運営面 教員が子どもとより向き合うことができ、指導が充実します。

- より多くの教員によって、子どもの評価を多面的に行えます。
- 小規模校よりも教員の配置人数が多くなり、校務や行事の事務分担を適切に行うことができるため、教員が子どもと向き合う時間をより多く生み出せます。
- 学級の枠を越えた習熟度別指導や学年内の役割分担による専科指導等の多様な指導形態をとることができます。
- 教員が連携をとって子どもたち一人ひとりの個性や行動を把握できるようになり、きめ細やかな指導を行えます。

施設面 学校施設の老朽化を早期に改善します。

- 学校統合を契機に、必要に応じたリニューアル改修や増改築を行うことで、老朽化の進む学校施設の早期改善を図り、安心・安全・快適な施設環境を確保します。
- 多目的教室やオープンスペース、電子黒板等のICT環境の整備を始め、学習指導要領の改訂等に合わせて求められる教育環境の多様な変化に、優先的に対応します。